



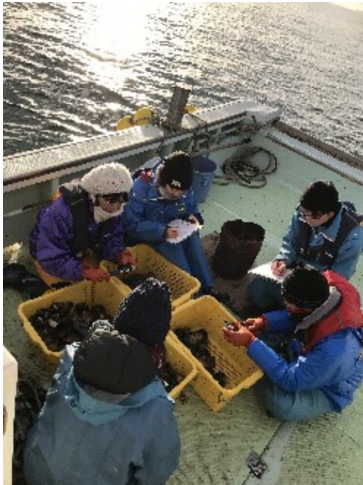
生命を支える自然のしくみ

農学部支部 伊藤絹子さん

私は水産資源のアユ、サケ等の魚類やホタテガイ・シジミなど貝類の生態と環境との関係について研究しています。

フィールドは広瀬川、名取川河口域、仙台湾、陸奥湾などで様々な水域に出かけます。

さて、水産資源の大きな特徴は、鉱物資源などと違って、自己更新性がある点です。農業も同じですが、自然の生物生産力に支えられ、太陽があるかぎり持続可能なしくみを持っています。ただし、将来に亘り持続的に利用するためには、自然を理解し、適切に管理してゆくことが求められます。この「自然のしくみ」として第一に挙げたいのが「生物の生産力」の大きさです。私たちは太陽光を直接、生命活動に利用できません。



山元町沖ホッキガイ調査

このことを多くの人に伝えることができるよう努力したいと考えています。

植物による光合成がすべての生命活動の基盤です。水域では1mmにも満たない植物プランクトンが担います。この植物を起点とした生態系の一員として魚類、貝類の生活があり、その一部を食料として利用しています。シジミやアサリでは1個体から数十万個もの卵が産出されます。これらの成長を支えているのは多種多様なプランクトンの生命活動、自然の力です。8年前の東日本大震災では甚大な被害を受けた生物群集も多くの種が回復、自然の力の大きさを再認識しました。

自然界の生物は場所を移動することにより、適した環境で生活しています。サケも数千kmの旅をして、数年後生まれの川に戻りその一生を終えます。この間私たちがあまり目にするのではない何百種類もの生物に支えられ、大きな変化を遂げてゆきます。水産学、生態学の研究を通して確信したことは、ヒトを含めて全ての生物は、自然のシステム、すなわち水や物質の循環・太陽エネルギーを基点とする生態系に依存しなければ生命を維持できないという基本認識の大切さです。生態系は生命をつなぎ続けている自然の壮大なシステムであり、持続可能なしくみそのものです。



労働環境調査アンケート (病院支部)

看護師が、年休取得や超過勤務など自分の働く環境労働条件についてどのように考えているのか、年度末に自由記載形式のアンケートを全看護師対象に実施しました。集計は今からですが、配布中、看護師が足りなくて大変という声が多く聞かれました。

集まるとにぎやか

(女性部)

3月19日(火)、女性部大会を行いました。散在する職場で働く女性部員が職場の状況にぎやかに語り合いました。東北地区女性交流集会で聞いた他大学の活動のまねをして、食事会の開催や、権利を知らせる広報活動などを行おうという方針を確認しました。

これからの日程

- 4月11日 (木) 裁判第3回口頭弁論
- 4月20日 (土) 韓国 市民運動から学ぶ平和へのステップ
- 4月25日 (木) 女性部主催お花見
- 5月1日 (祝) メーデー
- 5月3日 (祝) 5.3集会 石井暁さん
- 5月9日 (木) 第1回選挙管理委員会

編集後記

4月1日から「働き方改革」が施行されました。本当の意味で労働者のための改革となるように、組合の力を発揮して目を光らせていかなければなりません。大学は長時間労働の縮減に取り組んでいきます。大切なのは「仕事と生活の調和(ワークライフバランス)」です。表面だけの成果でなく、真のワークライフバランスを！(S)